事業名　**三笠はならのまほろば「あい」いっぱいプレゼント**

目　標　**世代を超えて郷土に生きる誇りと貢献力を高める**

１．取組の視点

校区は、奈良の中心市街地であり、歴史的な文化遺産も多く点在し、古都の落ち着いた雰囲気を漂わせている。しかし、地域行事への参加は少なくなり、特にボランティア活動には子どもの姿はほとんど見ることができないなど、人々は地域のつながりが希薄化の方向にあると感じている。そこで、『三笠はひとつ、三笠は　ならのまほろば』を合い言葉に、地域の特性を生かし、地域を学びの場所として活用し、さまざまな世代の人々との参加型・体験型の出会いや活動をとおして、郷土への愛着や誇り、社会貢献力を高め、未来へのおくりものを残したい。

２．取組の概要

【「あい・愛」クリーンウォークの実施（各小学校区歴史的遺産）】単なるゴミ拾い行事でなく郷土の歴史、自然、風景、景観など宝の保全につなげ、多くの素晴らしい文化財・伝統文化を守り、伝え、未来につなげるように努めた。

【ニーズ調査の実施】地域ぐるみで子どもの育ちを応援するために、育てたい子ども像と未来への贈り物として残したい宝物に関する調査を実施し、参画意識を高めた。

【未来子ども会議】子ども未来ニーズ調査結果をもとに、未来につながる地域づくりをするために、世代を超えて育てたい子ども像について意見交換をし、協働の意欲を高めた。

【「なら　三笠　まほろば　あい・愛　文化交流会」（なら１００年会館）】三笠ブランド創出に向けて、市立幼稚園・小学校・中学校だけでなく、校区内のすべての保育園・幼稚園・高校にも参加を呼びかけ、地学協働による最大の文化行事を開催しました。

３．成果と課題

「子ども未来会議」には多くの地域の方々が生涯学習センターに来られました。子どもたちの真剣な討議に充実感や満足感を味わってもらえました。

初めて開催した「なら　三笠　まほろば　文化祭」にも地域や保護者の多くの方々に積極的に参加いただきました。それぞれの地域への理解も深まり、他地域との交流も今まで以上にしっかり行われるようなりました。出演者もこんな大きな会場で発表できたこと自信をもちました。これらの活動は、地域との相互交流がさらに深まりました。

事業名　**夢を忘れないで**

目　標　**地域と一体となって、夢と自信と誇りの持てる学校作り**

１．取組の視点

学校環境を整備する活動として「校庭花いっぱい運動」「掃除に学ぶ会」「門松作り」「親子協働の集い」、また、生徒の主体的活動や発表を重視した「文化交流会」「地域でのコンサート」等の活動を展開してきた。

また、これらの活動ではできるだけ地域や保護者の協力や参画を得るようにして、生徒や学校の活動の様子を見ていただき地域の学校としての理解と存在感を広げていくようにした。

２．取組の概要

「校庭に花いっぱい運動」では、６月と１１月の２回、生徒会整美部の活動としてプランターに日々草やサルビアなど季節の花々を植え、水やりなど生徒自身が継続的に手入れを行い、いつも校庭に花があふれる安らぎのある環境づくりを進めてきた。

「親子協働の集い」においては、体育館にある老朽化したスノコを改修した。８月の大変暑い中、生徒と保護者が共同作業でスノコの制作を行った。

「コンサート」は、吹奏楽部が地元の各地区のまつりや少年院でのクリスマスコンサートなどを行い、普段の練習の成果や学校での活動の様子を地域の中で披露し交歓を深めた。

「文化交流会」は、県文化会館を貸し切り、本校の文化部や学習の成果を舞台や展示室を使って発表した。文化交流会は、年間の活動の目標になっており立派な施設で発表できることの喜びや満足感は生徒にとって大きな自信となった。保護者の展示参加もあり、多くの保護者・地域の方々の参観の励ましで盛り上がりのある交流会となった。

３．成果と課題

様々な活動を通じて、多くの保護者・地域の方々が三笠中学校の活動を観ていただき意見や感想も聞くことができた。とりわけ文化交流会やコンサートは好評で、生徒の頑張りの様子が観ている方々に感動を与えることができた。また、それが生徒の自信にもつながった。

生徒だけでなく地域・保護者の方々の協力も得ながら校内環境の整備を進めてきた。学校では四季の花々が咲き乱れ登校する生徒や来校者に安らぎを与えることができ、整備された花壇は本校のシンボルにもなっている。

事業名　**思いはかなう**

目　標　**将来に生きて働く勤労観・職業観を培う**

１．取組の視点

本校では実践的なキャリア教育を実施し、生徒の主体的な学習をとおして、自分自身に合った職業観や将来の姿をイメージできるようにして、目標をもって学校生活が送れるようにしてきた。

キャリア教育は、総合的な学習の時間に位置付け、１年生では「仕事を知る」、２年生では「仕事を体験する・マネー教育」、３年生では、「自らの仕事（進路）を考える」をテーマとして取り組んだ。

２．取組の概要

１年生の具体的な活動としては、身近な仕事について事前学習を進めた上で、「労働に学ぶ」事業において奈良大宮ロータリークラブの協力で１３の職種から、３３人の講師の方々を招いて、仕事の体験も含みながら、仕事の楽しさ、苦労話などを聞かせていただいた。例えばトリマーでは、犬の爪切りや土木設計では測量機を使うなど、実体験をとおして仕事の醍醐味を直に感じ取ることができた。

２年生では、「マネー教育」の時間を年間８回実施しました。外部よりファイナンシャルプランナーの方々を講師として招き、世界のお金や金融のしくみなどについて分かりやすく授業を受けることができた。

また、「職場体験学習」では、１００事業所（会社等）において３日間の職場体験に取り組んだ。

協力いただいた事業所の方々のおかげで、職場へ出かけての体験は、よりリアルに職業への理解を深めることができ、生徒にとっても印象に残る学習となった。

３年生になると間近に迫った自分の進路選択の参考にするために県内外の高校へ出向いて、その高校の特徴や卒業後の進路についてなど、１・２年で培った調べる力を生かしながら進路先調べを行った。持ち帰った内容は、情報の共有化を図るため土曜１日参観で発表会を行った。

３．成果と課題

社会的な体験をとおして、挨拶や言葉遣い等を考え、また、社会に出たとき自分はどう生きるかを考えるよい機会になった。

３年間の学習の積み上げによって、職業についての様々な知識や多様な職業観を身に付けることができた。さらに、目標をもって生活する習慣や、学習意欲の向上、学校生活において将来の自分の姿を深く考えることができるようになった。

これらの活動は、中学校や生徒の様子を理解していただく機会となり、地域との相互交流がさらに深まった。

事業名　**世界にはばたく椿井っ子**

目　標　**学校教育目標を達成するため、地域の教育力を活かし、特色ある教育活動を創造する**

１．取組の視点

本校は、奈良市の中心部に位置し、世界遺産に指定された多くの社寺や観光名所に隣接している。また、明治５年に開校した古い歴史と伝統を有する学校であり、地域の人々は愛校心が強く、学校教育に対する関心も高い。そしてとても協力的である。

こういった素晴らしい教育環境の中で、自分の郷土に誇りをもつとともに、世界に大きく目を向け、身近な所から積極的に行動し、表現や発信ができる児童を育成していきたい。

２．取組の概要

地域の人材や文化の活用を図り、本校の教育三本柱「国際理解教育」「環境教育」「特別支援教育」を進めた。特に「地域に学ぶ」をテーマに、校区を活動の場とした学習や活動に取り組んだ。

＜活動例＞

１年（昔遊び）

地域の高齢者の方に来ていただき、独楽回しやおはじき、お手玉等の昔遊びを教えてもらう。子どもたちにとっては、遊びを学ぶだけでなく地域の方とふれ合ういい機会となった。

２年（奈良公園の自然に親しもう）

奈良公園をﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸし、谷幸三先生より植物や虫たちのことを教えてもらう。季節の移り変わりによっていろんな変化があることを観察する。

３年（外国の小学生と交流しよう）

本校と長年交流を行っているｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ｷｬﾝﾍﾞﾗのｴｲﾝｽﾞﾘｰ小学校の子どもたちと手紙による交流を行う。外国語ボランティアガイドさんの協力を得て、メッセージを英語に翻訳してもらう。

４年（筆作り）

地域の伝統工芸を学ぼうということで、筆作りに挑戦。伝統工芸士の方にｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰとして来ていただき指導をしてもらいマイ筆を製作する。

５年（雅楽の鑑賞と体験）

学校の裏にある大宿所で練習を行っている南都楽所の方に来てもらい、雅楽の演奏と舞を鑑賞する。また笙などの日本古来の楽器に触れさせてもらう。

６年（私の町の宝物）

校区にある文化遺産や伝統工芸のお店を取材。ﾌｫﾄｽﾄｰﾘｰというソフトを使い、映像と音楽に説明（英文は奈良高校の学生と交流し翻訳してもらう）を加え CD を制作。APEC 観光大臣の方にも手渡す。

３．成果と課題

本事業をとおして、子どもたちは地域の多くの人たちとふれ合う機会をもった。その関わりの中で人間関係形成能力等、いわゆる「生きる力」を育てることができたと思う。また人だけでなく地域の遺産や文化との出会いから、自分たちの住んでいる地域の素晴らしさに気づくことができたことも大きな成果である。

ただ、事前の準備や打合せに多くの時間がかかる。その確保や円滑な運営が課題であると考える。また外部人材をさらに発掘していくこと、活動の内容を工夫していくことも今後の大きな課題である。

奈良市立大宮小学校

事業名 **地域とスクラム、学び育つ大宮アクション**

目　標 **地域の人々とのふれあいを深め、人としてのものの見方、考え方を学ばせ、また、生まれ育ったまちに誇りを持てる子どもを育てる**

１．取組の視点

私たちは、たくさんの地域の方々のおかげで、毎日健康に生活することができている。大宮まつりに参加し、地域の方々と触れ合うことによって、この地域に生まれ育ってよかったという誇りをもてる子どもを育てる。また、地域におられる名人さんに来てもらって、餃子づくり、こんにゃくづくり、かごづくり、バトミントン、ソーラン踊り、手品、指絵、紙芝居等多岐にわたり、いろいろな技術や技を教えていただき、たくさんのことを学ばせていただいた。

２．取組の概要

＜大宮まつり＞

社会福祉協議会が中心となって、大宮地区の諸団体が合同で開催する大イベントである。大宮小学校の児童は、子どもみこしや盆踊りでまつりに参加する。運動場は、各種団体の模擬店でいっぱ

いになった。小学校の職員は「コロッケ」「フライドポテト」、PTA は「焼きそば」「フランクフルト」を担当した。

当日もさることながら、１か月も前から櫓づくりの準備、地域総出で後片付けと、地域のみなさんのおかげで、大宮まつりが楽しい場になっているのだとつくづく思った。

＜心温まる昼食会＞

大宮小学校へ地域の高齢者をお招きして、昼食会を毎年行っている。社会福祉協議会のみなさんが中心となって、たくさんの方々の協力で和やかなひとときを過ごすことができた。

６年生が参加して、出し物をしたり、お話をしたりと楽しい交流が行われた。最後に記念撮影をして、後日メッセージを添えて、高齢者の方に送った。お礼の手紙をいただいたりして、さらに交流が続いている。

３．成果と課題

自分は多くの人のおかげで生きているんだということを、地域の方々との交流で学ぶことができた。自分にできることは何かを考えることができた。高齢者のみなさんとふれあうことにより、自分も人に喜んでもらえることができる。そして、喜んでもらえることは何よりの自分の幸せだと気付くことができた。

そして、「自分もこの地域の一員なんだ。今度は自分が地域のために何かできることはないか考えていこう。」という意識が芽生え始めている。

今後は、よりすばらしい昼食会にしていくためには何が必要かを追求していくことが課題としてあげられる。

奈良市立大宮小学校

事業名　**健やかな心と体をすくすくアクション**

目　標　**健やかな心身を育み、最後まであきらめずにやり遂げようとする力と、自他の命はもちろん、命あるものを大切にしていこうとする心を育てる**

１．取組の視点

子どもたちの体力が低下してきていることは、以前から問題になっている。本校の児童に関しても、同じことを感じる。

都会の真ん中で、遊び場所がない、外に出て運動ができない、家の中にこもってゲームをして遊んでいる、といった現状で、学校では何ができるのかを考えていかなければならない。

２．取組の概要

＜全校ドッジボール大会＞

大宮小学校恒例の秋のドッジボール大会が行われた。体育委員会が中心になって運営した。低・中・高学年にそれぞれ分かれてのクラス対抗戦。試合の日程が発表される前から子どもたちの練習が始まる。当日、優勝を目指して、白熱した戦いが行われた。

＜健康かけ足＞

１１月下旬から１２月中旬にかけて、「ランラン月間」です。早朝から運動場で合同かけ足を行った。一人ひとり自分の目標を決めて走る。

１～４年生の納会は運動場で行い、５・６年生は、世界遺産の平城宮跡へ行き、ペースランニング走として実施した。当日は寒い日にもかかわらず、一人一人が自分の力を１００％出し切った納会であった。

＜がんば読書＞

子どもたちは、火曜日と金曜日の朝８時３５分から８時５０分まで読書をする。落ち着いた雰囲気で１時間目の授業が迎えられる。

＜やさしさの飼育活動＞

現在、本校ではウサギを３羽飼育している。子どもたちが交代でお世話をしている。ウサギ小屋の掃除をしたり、うさぎを抱っこしたりする子どもたちの目は、やさしさに満ち溢れている。ウサギの飼育活動を通して、自らの命も大切にしようという心が育ってきている。

３．成果と課題

児童の体力づくりは、重要な課題である。しなさいと言われてする運動は、長続きしない。子どもたちの、「したいな。」という気持ちを大切にしながら、まずは、全員外遊びを目標にドキドキわくわく体力づくりの取り組みを続けていきたいと思う。

土を一歩も踏まずに登校してくる子どもが多い本校では、土に触れ、動植物を育てることから命のつながりやたくましさを学び、生あるものを大切にしていこうという心が育ってきている。

これからも、花いっぱい、緑いっぱい、笑顔いっぱいの学校であるよう、継続して取り組みを進めていきたい。

奈良市立大安寺西小学校

事業名　**伝えつなごう奈良いにしえの響き・心**

目　標　**「わたし大好き　あなた大好き　学校大好き　地域大好き」と思える児童の育成**

１．取組の視点

昨年度からの取組「伝えつなごう奈良いにしえの響き～雅楽を通して和楽器や奈良の伝統音楽にふれる活動～」を更に進めるとともに、地域（奈良）を教材とし地域の人材を生かした体験活動の充実を図ることに取り組んだ。また、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めることが大切であると考え、読書活動の更なる充実を図るとともに、子どもたちが自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力（コミュニケーション力）の向上を図った。そのために、専門的な知識や技能をもったさまざまな分野の講師を招いて、子どもたちが本物にふれたり、専門家の話を聞いたりする活動を数多く取り入れた。

２．取組の概要

春日大社南都楽所の方々に和楽器の指導をしていただき、成果を創作音楽雅楽として「世界遺

産学習全国サミット in なら」や「なら三笠まほろば文化祭」で発表した。権禰宜の方や和楽器「笙」を制作しておられる方の話も聞いた。雅楽や奈良の伝統行事（おん祭り）にふれる活動を通して、地域（奈良）の伝統や文化を大切にする心を育むことができた。

自分の思いや考えを自分の言葉で伝える力（コミュニケーション力）を身につけるために、話の講師（落語・コーチング）を招いて話し方・伝え方教室を行い、相手のことを意識した話の仕方や聞き方を楽しみながら学んだ。

本物にふれる感動体験を通して、子どもたちに豊かな感性を育むために、優れた音楽（松本真理

子さんのマリンバ演奏や南都楽所の方々の雅楽）や伝統芸能（笑福亭純瓶さんの落語）にふれる活動を行った。

地域を教材に、地域の人材を生かした体験活動に取り組んだ。谷幸三先生（環境科学博士）を講師として、地域を流れる佐保川の汚染度を知る環境学習を行ったり、地域の名人さん（万年青年クラブの方々）に野菜作りや昔遊びを教えてもらったりした。

児童用図書を購入し、図書室の蔵書を増やし読書活動の更なる充実を図った。

３．成果と課題

保護者アンケートで、「特色ある教育活動」肯定率 88%（前年度比＋４ﾎﾟｲﾝﾄ）、「地域連携」肯定率 98%（前年度比＋２ﾎﾟｲﾝﾄ）の評価を得た。奈良の伝統音楽・行事にふれる活動、地域（奈良）を教材とし地域の人材を生かした体験活動、学んだことを伝える（発表する）活動などを行い発信の機会をもつことにより、地域の伝統や文化を大切にする心を育むとともに、学ぶ楽しさや成就感を体感させることができた。

奈良県児童の体力不足が言われる今、体力づくりに関する取組が必要であると考え、地域のスポーツクラブと連携して課題解決に取り組んでいこうと考えている。

奈良市立佐保川小学校

事業名　**佐保川は歴史と文化の出発点**

目　標　**地域にある自然環境と文化遺産を活かした事業を地域の方々と協力して行うことで、佐保川地区を愛する子どもを育む**

１．取組の視点

校名にもある「佐保川」を中心に事業を展開する。佐保川は、校区内を流れ「佐保川　水辺の楽校」という親水施設もあります。この恵まれた自然環境を活用して、佐保川の自然環境を守ると同時に校区内の環境美化に対する意識を高める。

また校区内には、平城宮跡をはじめ、法華寺や海龍王寺などの文化遺産も近くに数多くあるものの、触れる機会も少ないので今回の事業を通して少しでも機会が増やせたらと考えた。

この事業全体の願いは、子どもたちが将来的にこの佐保川地区に回帰するようになればと願っている。

２．取組の概要

〇佐保川清掃

学校では、毎週定期的に実施している。

この佐保川清掃を通して、佐保川の環境についての意識を高める事に繋がっていった。とくに５年生は、佐保川の源流を探るために「春日奥山の鶯の滝」まで行って、「佐保川□水辺の楽校」との水質を比較したり、水生生物の様子から環境の変化と環境保全の大切さを学んだ。上の写真は、源流を探検しているときの様子である。

〇「南都八景の復活」

その昔、佐保川はホタルの名所として「南都八景」の一つに数えられた場所で、地域の方々からは佐保川清掃を通して、ホタルの棲める佐保川への思いも強い。そこで本事業の一環として、ホタルの放流を実施した。下の写真は、その時の様子で、地域の代表の方も放流に参加していただいた。

〇地域の文化遺産との交流

普段は入ることの出来ない、法華寺での「もちつき会」で、昔ある「かまど」を使っての作業も

経験できた。その他、地域の方々の協力で様々な体験をすることができた。

３．成果と課題

本事業を実施した成果は、先にも述べているように地域方々や子どもたちに大きな成果を残した。特に佐保川校区は、その名のとおり「佐保川とともに」である。ホタル放流に際して、自治連合会長が言われた「卒業してもホタルのように、佐保川に帰ってきてください」という言葉が、今年の取組の全てを物語っているように思う。

次年度以降は、今年の取組を一過性の物とするのではなく、継続的な地域協働活動としていく手立てを講じる必要が残された課題である。

奈良市立佐保川小学校

事業名　**心豊かな　佐保川っ子**

目　標　**読み聞かせや読書指導など、学校と地域が力を合わせることで、子どもの読書活動を盛んにし、心豊かな佐保川の子どもを育てる**

１．取組の視点

本校では、以前から図書館蔵書数（ハード面）での充実と読書指導というソフト面での充実を目指して、様々な取組をしてきた。

今年度、本事業を実施することになり今までの取り組みを更に発展させる事をめざして展開した。本事業においては、地域の方々の協力（読み聞かせ活動など）と子どもの読書志向を考えながら取組を進めた。

２．取組の概要

〇環境整備

図書室前の壁面を利用して、新刊図書の啓発用に掲示板を設置した。この掲示板の設置により、図書委員会の子どもたちの自主的な活動が一層活発になり、図書室に足を運ぶ子どもたちの数も増えていった。こうして子どもたちが、積極的に図書啓発に努めるようになると同時に、地域の

方々から「蔵書整理と図書修繕」のお手伝いが始まった。地域の方々と本校ＰＴＡの部員さんが協力して、分類番号の整理や傷んだ本を修理用品で修繕するという活動を行っていただいた。

〇読み聞かせ活動

この活動については、計画当初は早い時期から実施を予定していたが、メンバーの方との日程調整の都合で、事業後半での実施となった。今回、協力をいただいたのは「奈良お話しの会・せんと会」の方々にご協力をいただいた。一回のお話しの会では、二話または一話と手遊びというような工夫をしていただき子どもたちには講評であった。以下は、活動のようす（部分）と感想（抜粋）である。

とっても良いお話しでした、また聞かせてくださいね。（３年女子）
楽しかったです。「三枚のおふだ」は、けっこうドキドキしました。（３年男子）
「さるのいきぎも」がおもしろかったです。今度は、奈良の昔ばなしをしてください。
（４年男子）

３．成果と課題

成果については、先にも述べたように子どもたちの中に読書に対する意欲が高まったことは確かである。とくに「お話しの会」は、初回こそ校内放送したものの、回を追うごとに自ら集まるようになり、子どもたちの中に待ちわびていることが明らかになった。

一方で課題としては、お話しの会を昼休みに設定したために、高学年は委員会活動などと重なって参加することができなかった。次年度は、設定時間や開催回数などの調整が必要である。また教師との読書タイムも、なかなか確保できなかったのも大きな課題であると考えている。

奈良市立大宮幼稚園

事業名　**育ち合おう!感動いっぱいの幼稚園**

目　標　**音楽を楽しんだり、思いっきり体を動かしたりしながら、地域の人々との出会いを楽しむ**

１．取組の視点

本園の校区はすぐれた人材に恵まれている。また、地域の人々には園教育に深い理解をいただき園の行事に積極的に支援していただいている。しかし、子どもたちは家族以外の人とかかわることが少なく、たくましさに欠ける面が見られるため様々な人々とふれあい豊かな体験をし、自信をもつことが必要であると考えている。

そこで、地域の人々の力を借りて運動体験や音楽体験ができる機会をもち感動体験を積み重ね、地域の人々との出会いをとおして、自らも地域の一員としてかかわりを楽しめるようにしていきたい。

２．取組の概要

（１）地域の方に指導を受けて楽しむ活動

〇体を動かしてあそぼう

・「元気っこクラブ」で遊ぶ。
　マットや跳び箱の使い方を専門の先生に計画的に指導を受ける。

・「おにいさんとなかよし」で遊ぶ。
　園庭開放で地域の方や奈良クラブの方に指導を受ける。

・逆上がり練習機を使って鉄棒で遊ぶ。

（２）地域の方と一緒に楽しむ音楽活動

〇楽器であそぼう

・地域の行事、給食会で演奏する。

・音楽会を実施する。

・ＪＲ奈良駅前広場の行事で発表会をする。

・なら三笠まほろば文化祭に参加する。

３．成果と課題

地域の方の指導を受けて計画的に体を動かして遊んだことで柔軟に体を動かす方法を知ることができた。家庭でも布団を使って前回りやブリッジを楽しんでいる話が聞かれるようになった。逆上がり練習機を設置したことで鉄棒に挑戦したり、競い合ったりする姿が増えた。また、転んでけがをする子どもも減り、経験したことを生活発表会でも発揮でき、保護者に喜ばれ感動的な体験となった。

音楽活動は楽器を充実したことで様々な地域の行事に参加し多くの方々に出会った。認めていただいたことで自信をもち地域の方と一緒に過ごす楽しさや発表したりする経験をすることができた。どの活動も地域の方の積極的な支援があり、充実したものとなった。今後は地域を知るための活動も充実していきたい。

奈良市立大安寺西幼稚園

事業名　**きこう　話そう　輝こう　すてきな奈良で**

目　標　**豊かな心をもち、たくましく生きる幼児の育成**
地域や奈良が好きと胸を張って言える幼児の育成

１．取組の視点

○　世界遺産学習を通して

・　わらべうたや奈良の民話から奈良の世界遺産や文化遺産を知り、興味をもつ。
・　実際に出かけ、実物にふれることで親しみや偉大さを感じる。
・　自分の住む地域のことを知り、親しみを感じる。
・　様々な人の話を聞いたり、温もりを感じたりして大事にされてきたことを知り、自分も大事にしていこうと思う。
・　活動内容や子どもの様子を随時、家庭に発信し、子どもが家庭で伝えたことや保護者の感想を返してもらい、家庭にも世界遺産学習を広げる。

○　いろいろな感動体験を通して

・　音楽や絵本、花壇などの環境を充実させることで感性を豊かにする。
・　親子でカプラを体験し、親子の触れ合いと目標に向かって一緒に取組む楽しさを味わう。
・　本物と出合うことで感動を先生や友達と共有する。
・　四季を通じて地域の方から野菜の栽培について教わり、生長に興味をもつ。

２．取組の概要

＊ わらべうたで遊ぼう

＜唐招提寺＞

鑑真さんは6回目でやっと日本に来ることができたよ。
中国からハスの花の種を持ってきたよ。

（子どもの様子）

ハスの下にレンコンが生えていることや、鑑真和上が苦労の末に日本に来たこと、千手観音の修理で手が全てはずされたことなど、子どもたちは驚きとともに真剣に聞いていた。

＊　観光ボランティアガイドさんの案内で

「千手観音様の手がついている。よかった」と実物を見て安心。996本あるんだよ。

（子どもの様子）

心地良い人とのかかわりの中で世界遺産と出合ったことで、子どもたちは人の優しさや温もり、命の大切さ、修理をしながら長い年月にわたり守られてきたことなどを聞いたり、感じたりすることができた。

「一緒に遊ぼうかがやく奈良で」というファイルを作り、奈良の世界遺産・わらべうたの紹介やクラスの子どもの様子などを随時、発信する。保護者からは家庭で子ども達が伝えたことや感想を返信してもらう。

３．成果と課題

聞いたり、見たりすることで興味をもち、知ったり、感じたりしたことを言葉で伝え手応えのある言葉の応答を体験することで、次への意欲が生え、学びの多様さ、広がり、深まりを得ることができた。

園評価アンケートでは約95%の子ども達が家庭でも伝え、約50%の家庭が奈良の世界遺産に訪れるようになったと応えている。家庭にも広がっていることが確信できた。